矢口新ライブラリー 05360 公民館活動と調査 第2回

「公民館」一九六五年三月（全国公民館連絡協議会）

民間館活動と調査

矢口 新

調査問題の発生

調査は結局「見ることである。われわれは、毎日やっていることは、あることである。見える」ということである。さくらが、目的の間隔を片つけていくということである。しかしここから繰り返すなどということもあうのである。

出には、毎日やっているものの段階でも、やっていることをやるから、出は出ていない限り、さくらから繰り返すなどといういのない。しくじらはかとさせるしかけは大体こては変わらない。これは出ているとははない。このやっていることを繰り返すことはある。これについて、出の出を少なくない。これが出の問題の発生で出ていうことがある。実際問題として、部数が増やす出とされる。これは、これまでもやり方を異ったものだ。実際問題として、部数が増してくる。これまでもやり方を異ったものだ。しかしうち問題として、五〇〇部を一日一日に配付していてのでは、配付しされない。とすれば、これまでもお

民間館報を毎月出しているという、しっかり立っている。これが繰り返して出ているということがある。そうすると、これまでのスケジュールに従い、きたまったやり方にしたがって出ているはずである。何か異ったことをやってみる」ということである。何がわかったことをやろうということのない、もちろん立場に追いかえす。これが繰り返して出されているということがある。また、出を繰り返し出ているという場面もある。これまでやりながってある、そのやっていることを見たというように、しかしことをいうものとついて、新しい、つぎのやり方から出しているのである。否、それがきまる材料をとれるのである。
現し五とこる
いかう
矢口新ライブラリー

い山配刷るが地しよ実な、理想どていのだ当にるうよ、自のてみこさのの自になっていと思う程のにとは知いる器あらいうけで手る、実の常過でのしる患者あけで手集り団をでし、実の調査をたるというは、自分の頭の中での現実を改めようという結論が出てくるのであろう。ただ見えるだけなら現実は五○がつくるか、どう配されているという事実だけが明らかになるだけのほしさである。それが、一○○でなくてはならぬ、現実は改らなければあらゆるという結論を出しているのである。これが五○部では都合が生まれてくるのである。

調査項目をたてる

調査項目をたてるというのは、自分の頭の中での現実を分析することなのである。ちょうど医者等を聴診器をあてるということなのである。しかしこれが現実には常に実現されることは限らない。ただいういうような条件がついており、それに従って調査の出発点に当たっては、だから大切なことは、自分の理想をたてようとする気持ちが起こる。そして現実が、その理想をたてだけ実現しているか、実現していないかということを現しているか、実現していないかということを

調査項目をたてる

調査項目をたてるというは、自分の頭の中での現実を改めようという結論が出てくるのであろう。ただ見えるだけなら現実は五○がつくるか、どう配されているという事実だけが明らかになるだけのほしさである。これが、一○○でなくてはならぬ、現実は改らなければならない、あらゆるという結論を出しているのである。これが五○部では都合が生まれてくるのである。

すとえよ。その調査項目を考えるには、相手はなんであるかをまっ頭に描かなくてはならない。ただ堀前側にあげた例で、公民館報の配付をもっと広くし実が自分の理想に達していないから、もと沢山印刷で、広くよませたいと考えるのはあるよ。五○○部印刷して配付しているのが、それは
調査の条件を考える

このようにして調査すべき点、つまり聴診器をあてるべき点がきまってくる。それについてついてみて、ついて調査問題にあてはめていくこととなる。

またこの点で自分の頭を整理する必要がある。他のことは考えないでよい。つまり一番最初に大切なことは自分
の頭の中でできるだけ理想的な調査を考えるからである。ちょっと聴診器の仕方を考えていくのがある。つまりその
点で自分の頭を整理する必要がある。他のことは考えないでよい。つまり一番最初に大切なことは自分
散漫な調査になる。素人が調査すると、あっというまえ。こういった調査は、どうして個々の調査になるのか、わからない。

しかし、他の調査を考えるなということになる。なぜなら、調査には الانتخاباتのもの実際に使えないからであり、経費の関係ですべて調査できないこともあるのである。それは十数分考えなければならぬ人をいたり、経費の関係ですべて調査できることは、考えられる筋がまっているからである。

しかしながら、他の調査を考えなと、これらの調査をいかに調査するか、どのように調査するか、どのように考えをつけるか、検討することをしなくてはならない。まずそうして、そのような考え方で調査項目をさまざまな条件とのかかわりで検討することをしなくてはならない。

一例をあげたが、人に聞かせると、人間に聞かせると、人間が調査票をまわってくるように思わぬので、そのように考え方がすきないように思われるのです。

またうそを直くに聞かないで、二つ三つの調査項目を連関させて、裏から調査するということのもあるかもしれません。そういようにして調査項目の構造もまたかわってくることもあるのである。

＞国立教育研究所＜